

## 2004年度(平成16年度)第3回常務理事会記録

日 時：2004年(平成16年)6月19日(土)14:00~16:30

場 所：東京大学医学部2号館(本館)南側地下カンファランスルーム

出席者：廣川信隆(理事長)、河田光博、柴田洋三郎、高田邦昭、山科正平

(以上常務理事)、依藤 宏(幹事)、小森雄一郎(学会事務センター)

### .会議記録の確認

1. 2004年度第2回常務理事会記録(案)及び同摘録(案)
2. 2004年度第1回理事会記録(案)及び同摘録(案)
3. 2004年度第1回理事会議事録(案)——文部科学省提出用

### .報告事項

#### 1. 庶務報告(高田庶務担当理事)

##### 1) 会員異動報告(正会員2,186名 2004年4月30日現在)

2004年2月分 入会者 正会員4名 学生7名 退会者 正会員8名 団体1  
団体 住所変更等10件

2004年3月分 入会者 正会員5名 学生9名 退会者 正会員10名 学生  
1名 学術評議員4名 名誉1名(逝去) 住所変更等34件

2004年4月分 入会者 正会員5名 学生9名 賛助7社 退会者 正会員7  
名 団体1団体 学術評議員1名 住所変更等47件

##### 2) 学会に届けられた文書等

###### 通知等

a、日本学術会議より「日本学術会議法の一部改正に伴う制度の変更等について」  
(通知)

内容の概要としては、

1. 会員制度の改革 ) 選考方法が現行の学会推薦がなくなり、学術会議会  
員が会員候補者を選考。 ) 定年制の導入と再任の禁止...70歳定年制、任期を6  
年とするかわりに再任を禁止。 ) 半数改選制の導入...3年毎に半数の会員を改  
選

2. 現行の「登録学術研究団体」は「広報協力学術団体」となる。

3. 内部組織の改革 ) 部の大別化...「人文科学、生命科学、理学及び工学」  
の3部制に改組。 ) 連携会員の新設...研究連絡委員会を廃止し連携会員を新設。

) 幹事会の設置...現行の運営審議会を幹事会に改組。 ) 副会長の増員(1名を  
増員)

4. 内閣府への移管...総務大臣の所轄から内閣総理大臣の所轄に移管される。

以上が主な改正点であり、この改正に伴って現行の 19 期の任期は平成 17 年 9 月 30 日までとなる。

b、日本医学会より「会長交代のお知らせ」(挨拶状)

前会長：森 亘氏 新会長：高久史磨氏

以上の他 1 件の通知、1 件の挨拶状が届いている。

書籍、定期通信他

IFAA よりの「PLEXUS」(Newsletter of IFAA) April 2004、他 11 件の書籍、定期通信等が届いている。

後援、協賛及び会告掲載依頼

第 24 回人体解剖トレーニングセミナー実行委員会より後援依頼、他 2 件の記事掲載依頼、2 件の会告掲載依頼があり、人体解剖トレーニングセミナーについては例年どおり後援することとし、上記計 5 件については既にホームページに掲載済みであることが報告された。

3) その他

文部科学省からの問い合わせ「化学物質過敏症等に関する調査」について：解剖学会として人体解剖実習が医学教育に不可欠である旨を文部科学省に説明した。さらに解剖体委員会相磯委員長に依頼していた「シックハウス症候群との関連での解剖実習室の環境問題」及び「解剖実習をプラスチック標本で代替する事の可否」についての検討(2004 年度第 2 回常務理事会記録及び同年 1 回理事会記録参照)を早めて頂き、次回総会に中間報告をお願いすることとした。また各大学に対し文科省のアンケートの背景とそれに対してのとるべき対策を理事、支部長から連絡していただくことになった。

「解剖学用語集」出版契約の締結：

前回理事会で承認された標記用語集の出版につき、医学書院との間で正式契約が締結されたことが報告された。

その他

- a. 次回総会、学術評議員会の委任状の集まりが悪く、支部長を通じて投函を依頼することが、報告された。
- b. 来る 6 月 23 日文部科学省より学会事務センターに立入検査が予定されており、大川事務局長と小森氏で対応することが報告された。(この項は小森氏よりの報告)
- c. 文科省原子力安全課で検討されている核燃料物質規制強化案に対し、関係学会によるワーキンググループができ、8 月末までに使用上のマニュアルを策定すべく素案を作っているとの報告がなされた。(この項は山科理事よりの報告)

2. 編集報告(柴田編集担当理事)

- 1)「ASI」及び「解剖学雑誌」刊行状況報告

標記につき報告がおこなわれた。

## 2) 支部学術集会抄録の取り扱いについて

支部学術集会抄録は従来、全国学術集会予稿集の後付けとして集録されているが、今年度は全国学術集会が国際解剖学会議を兼ねて実施されるため、どう取り扱うかが財政的な面も考慮の上、検討された。その結果 「解剖学雑誌」に掲載する出版経費として1件につき2,000円を負担していただく負担方法については支部に一任するとの案が常務理事会より全理事宛にメーリングリストを介して提案された。集計結果としては全理事17名中14名が賛成、総会あるいは何らかの形で会員の意見を広く聞いた後との条件付き賛成が1名、返答無し2名であり、提案は承認された。このアンケート結果を受け、再度各支部長の御意見を伺ったところ大きな反対はなく、今年度より上記の形で実施されることが承認された。

## 3. 企画・渉外報告（河田企画・渉外担当理事）

### 1) 2級技術士審査結果報告

解剖組織技術士資格審査委員会（委員長 大野伸一 山梨大学教授）より1名の申請者に対し資格ありと認定した旨報告があった。

### 2) 第16回国際解剖学会議（2004年度開催）準備状況報告

概ね良好に進んでいる旨、報告がおこなわれた。

### 3) その他

3月26～27日に実施された第34回篤志解剖全国連合会に関する報告がおこなわれた。

## 4. 会計報告（山科会計担当理事）

### 1) 平成16年度会計中間報告

収入については1～5月における会費納入率が6割程度であり、支部長を通して督促することも考慮中であること、支出に関しては特に大きな額のものはないとの報告があった。

### 2) 賛助及び寄付募集状況について

現在までの標記募集状況について説明があった。

## . 審議事項

### 1. 第24回医療情報学連合大会（第5回医療情報学学術大会）共催または協賛依頼 標記大会の共催または協賛の依頼が届き、審議の結果協賛とすることが決定された。

### 2. 申請学術評議員審査（追加）

標記審査については前回理事会において投票により実施されたところであるが、4月16日付で申請が1件提出された。規約によると総会の前日3ヶ月前まで、即ち今年度は総会が8月25日なので5月24日までに出された申請は受理し審査することが必要となる。従ってこの件については各理事宛に資料を送付し、郵送による投票を実施することが決定された。

3 . 2005・2006 年（平成 17・18 年）度役員選挙スケジュール（案）

標記の選挙スケジュール（案）が提示され承認された。

4 . 2004 年（平成 16 年）度会計監査

今まで会計監査を依頼してきた宮内公認会計士が事務所を変わることになり、それに対して今後どうするかが検討された。

5 . 「解剖学雑誌」のあり方について

解剖学雑誌編集委員会塩田浩平委員長より、解剖学雑誌のあり方について常務理事会で意見交換を要望する旨、申し入れがあった。これを受けて討議が行われ、原著論文、総説、case report なども ASI に統一し、和文誌は学会員の情報交換の場としてはどうか等の意見が出された。この点については今後塩田編集委員長との間での話し合い、英文誌との調整などを通じて方向を決めて行く予定である。

6 . 2006 年（平成 18 年）2007 年（平成 19 年）度総会・全国学術集会開催校について

標記につき解剖学雑誌で開催校を募集中であるが現在までに開催希望の連絡がないことが紹介された。

7 . IFAA について

General Assembly への出席者、各種委員会の委員案などが審議された。前者は廣川理事長、河田理事、井出組織委員長が、後者については 1 ) Federative International Committee on Anatomical Terminology (FICAT) : 瀬口教授、2 ) Federative International Committee on Education in Anatomical Sciences (FICEA) : 河田理事、3 ) Federative International Committee on Anatomical and Scientific Press : 柴田理事、4 ) Federative International Committee on Comparative, Applied and Experimental Morphology : 塩田教授、5 ) Federative International Committee on Revitalization : 高田理事、が候補者として決定された。

続いて、IFAA から送付の IFAA Constitution 改正案に対しての日本解剖学会の正式回答について審議された。また第 16 回国際解剖学会議において、解剖学の占める役割とその重要性をうたった京都宣言を出すこと、およびその文案についての審議がおこなわれた。

8 . 海外関連団体に対する諮問委員会の海外関連団体への対応に関する答申：その 2 APICA への対応

標記に関する答申が承認された。その骨子は第 16 回国際解剖学会議時に日本解剖学会が組織として他国の解剖学会に呼びかけ、International Committee を開催、学術集会や今後のあり方を調整する。また APICA の Executive Committee には日本解剖学会が組織として適切な人材を送り、アジア太平洋各国解剖学会の連携と APICA 学術集会開催に組織的に協力できる体制を構築すべきである、と言うものである。

9 . 次回常務理事会及び理事会開催日程

前者は7月31日(土)に、後者は8月23日(月)12:00~13:00に実施することが決定された。

10 . その他

永年会員証の2種類の見本が提示され、審議の結果その一方に決定された。